



小郡市【福岡県】 歴史文化基本構想

■策定年度：令和2年3月 ■人口：59,578人 ■市域面積：46km²
■担当課：小郡市教育委員会文化財課（令和2年4月現在）



古くから交通の要衝として栄えた小郡市は文化遺産の宝庫である。これらを総合的かつ的確に保存・活用するための指針となる「小郡市歴史文化基本構想」の策定にあたり、文化財を指定・未指定に関わらず幅広く関連付けて捉え、「関連文化財群」や「歴史文化保存活用区域」の設定を行った。この構想をふるさとの魅力あふれる「小郡らしいまちづくり」へとつなげることを目標とする。

5 歴史文化を表す つのキーワード

津古古墳群、移動する官衙、大保原合戦の記憶、
近世のクロスロード、水とくらし

課題

- ・民俗・建築など多様な分野の文化遺産への対応
- ・未指定文化財の保存・継承の方策
- ・実効性のある個別計画の策定

保存活用方針

- ・広い分野の専門職員の確保
- ・行政内部の連携組織の構築
- ・保護・継承の担い手育成とネットワーク作り
- ・協働による新しい活用方法の検討

保存活用のための取り組み

文化財を知る取り組み ～学校教育・社会教育の拡充～

近年、教育現場との連携に力を入れ、毎年3,000人に及ぶ児童・生徒への出前講座を実施しており、今後も「小郡ジュニア歴史博士」等の取り組みを推進する。また、社会教育分野の活動拡充を図り、積極的な情報発信を行う。



文化財を守る取り組み ～市民主体の保存の取り組み～

指定・未指定に関わらず、地域の民俗芸能の継承は大きな問題となっている。担い手の育成にはネットワーク作りによる情報の共有が不可欠で、市民と行政がそれぞれの強みを活かした協力関係の構築に取り組む。



文化財を活かす取り組み ～公開と新しい活用方法～

単体ではなく、ストーリーの中で生きる文化財は、史跡案内ボランティアのハイキングルートの中に位置付けている。今後は食や健康など他分野との連携を図り、新しい視点・新しい活用方法によって、魅力的な事業を展開する。

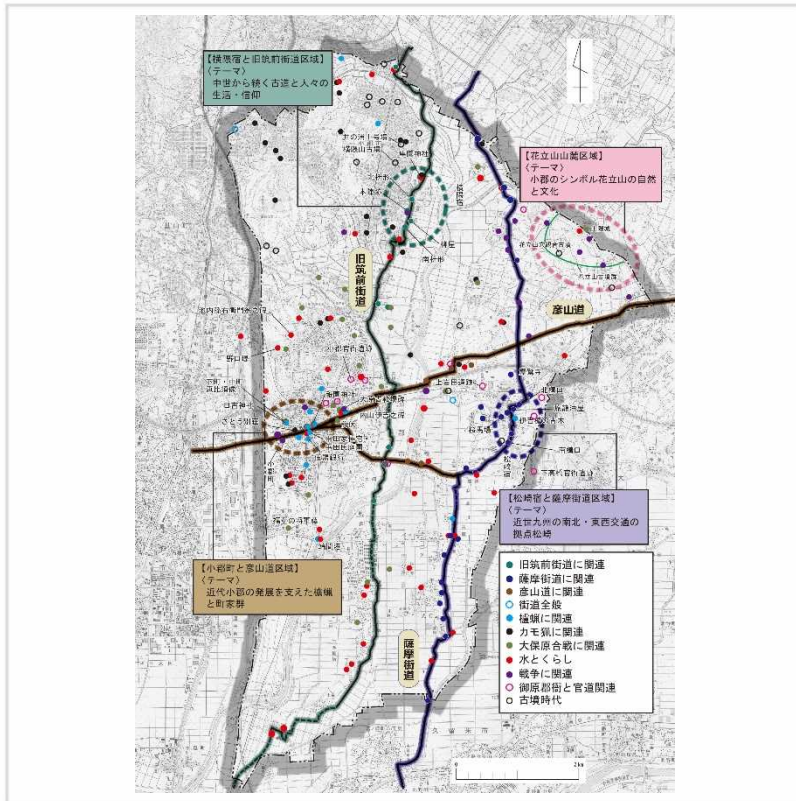


文化財を活かす取り組み ～大学など専門機関との連携～

様々な分野の文化財の活用を図るため、より高度な専門知識を持つ大学等との連携を図る。平成30年度より福岡女学院大学と観光まちづくり協定を締結しており、学生など外部の視点を活かしたまちづくりを推進する。



関連文化財群



市内の悉皆調査で得た約3,800件の文化遺産を分類し、9つのストーリーを設定した。設定に当たっては、「小郡市の特徴がよく表れていること。」「有形・無形、指定・未指定を問わず、多種多様な文化財を対象とすること。」「今後の取り組みの中で価値が広く認識され、市民と行政で共有できるものであること。」を基準としている。

ストーリー

- ① 津古古墳群と小郡の古墳文化
- ② 郡役所の教科書 小郡官衙遺跡群
- ③ 九州南北朝最大の合戦 大保原合戦
- ④ 水とくらし
- ⑤ 近世のクロスロード 小郡
- ⑥ 櫓と小郡
- ⑦ 小郡の食文化 鴨料理
- ⑧ 民間信仰 さまざまな祈りのかたち
- ⑨ 大刀洗飛行場と戦時のくらし

策定後の成果（見込まれる効果）

- ① **保存活用地域計画の策定**
- 基本構想の策定により、関係部局と情報を共有することができた。今後は開発の対応のみならず、市が策定する各種計画とも連携を図ることができる。また、基本構想検証後には、文化財保存活用地域計画の作成を予定しており、それを念頭に地域と具体的な方策を検討することができる。



- ② **文化遺産の保存・継承**
- 市内の悉皆調査で得た数多くの文化遺産情報は、そのまま今後の文化財指定の基礎データとなる。また、数100件に及ぶ聞き取り調査の成果は、二度と得ることができない貴重な情報である。今後は文化遺産の所有者や地域と価値を共有し、保存・継承への体制の構築が期待される。



- ③ **まちづくりのテーマとして活用**
- 基本構想の策定により、郷土に眠る歴史がストーリーとして明らかとなった。今後は、これまでに2度取り組まれた「大原合戦」記念事業のように、市民や地域、さらに事業者が中心となり、歴史をテーマとしたまちづくりイベントなど、多様な取り組みが推進されることが期待される。

